

# 子どもの食支援の現状

埼玉県立大学研究開発 センターシンポジウム 2020  
第2部シンポジウム「地域のつながりの再構築を目指して」  
「支援者をいかに支えるか～子どもの食支援活動から考える～」

# 目次

1. 発表者略歴
2. 全国的な子どもの居場所作りの現状
3. 埼玉県内のフードパントリーの現状
4. 事例紹介①ハピママメーカープロジェクト（埼玉県川口市）
5. 事例紹介②いとしまこども食堂ほっこり（福岡県糸島市）
6. 戸田市（行政）の取り組み
7. まとめ

# 発表者略歴

## 佐藤 匡史 (さとう まさし)

- 大阪市生まれ。埼玉県川口市内に在住
- 立教大学経済学部卒業
- 複数の外資系企業での人事・総務歴 約20年
- 現在、食品ロス解消を行う (株) タベキフのプロジェクトマネージャー他

## プライベートの活動

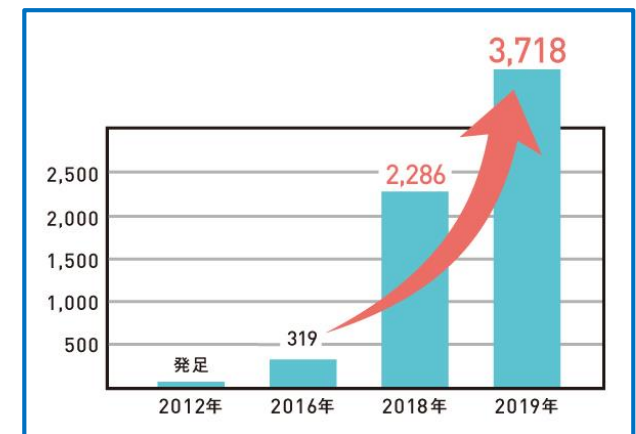
- 川口こども食堂代表
- 埼玉県こどもの居場所づくりアドバイザー
- 学生こども食堂ネットワーク全国大会・事務局
- 日本こどもの居場所ネットワーク埼玉支部・事務局
- ハピママメーカープロジェクト広報担当
- 特定非営利活動法人チャイルド・ギフト 事務局長・広報担当  
(児童の発達障害支援のNPO法人)

# 全国的な子どもの居場所作りの現状

# コロナ前の状況

- 2008年：リーマンショック（派遣切り・年越し派遣村）
- 2011年：東日本大震災で「共にあることの価値」が高まる
- 2012年：皆で集まり皆で食事をする「共食型居場所」が誕生
- 2015年：生活困窮者自立支援法成立／母子家庭の平均年収181万円（厚労省）
- 2016年以降「こども食堂」という通称で「共食型居場所」が全国各地に拡大
- 2019年：
  - ・ 6月時点で3,718か所に
  - ・ この段階で、すでに2回目の開催ができない「こども食堂」が微増。2020年以降は「続け方」が重要ポイントになるといわれ始めてきた
  - ・ ほぼ同時期に、食材の無償提供を行う「フードパントリー」の活動が埼玉県内で始動（2018年9月より）
  - ・ その後、新型コロナの影響で状況が一変

※こども食堂、フードパントリー、学習支援などの活動を総称して「こどもの居場所づくりの活動」などと呼ぶ



# コロナ後の状況

- ❑ 2020年2月：大多数のこども食堂が活動休止に
- ❑ 2020年6月：緊急事態宣言終了後に、一部のこども食堂が活動再開
- ❑ 2020年11月時点でこども食堂の約半数が「再開のめど立たず」

子どもたちへの食事の提供をどの程度再開しているか聞いたところ、

- ▽ 「すでに再開」が24%
- ▽ 「10月から再開予定」が6%と、合わせて3割にとどまっている一方で、
- ▽ 「予定は立っていない」という回答は48%と半数近くへのぼり、前回（6月）の調査から9ポイント増加。

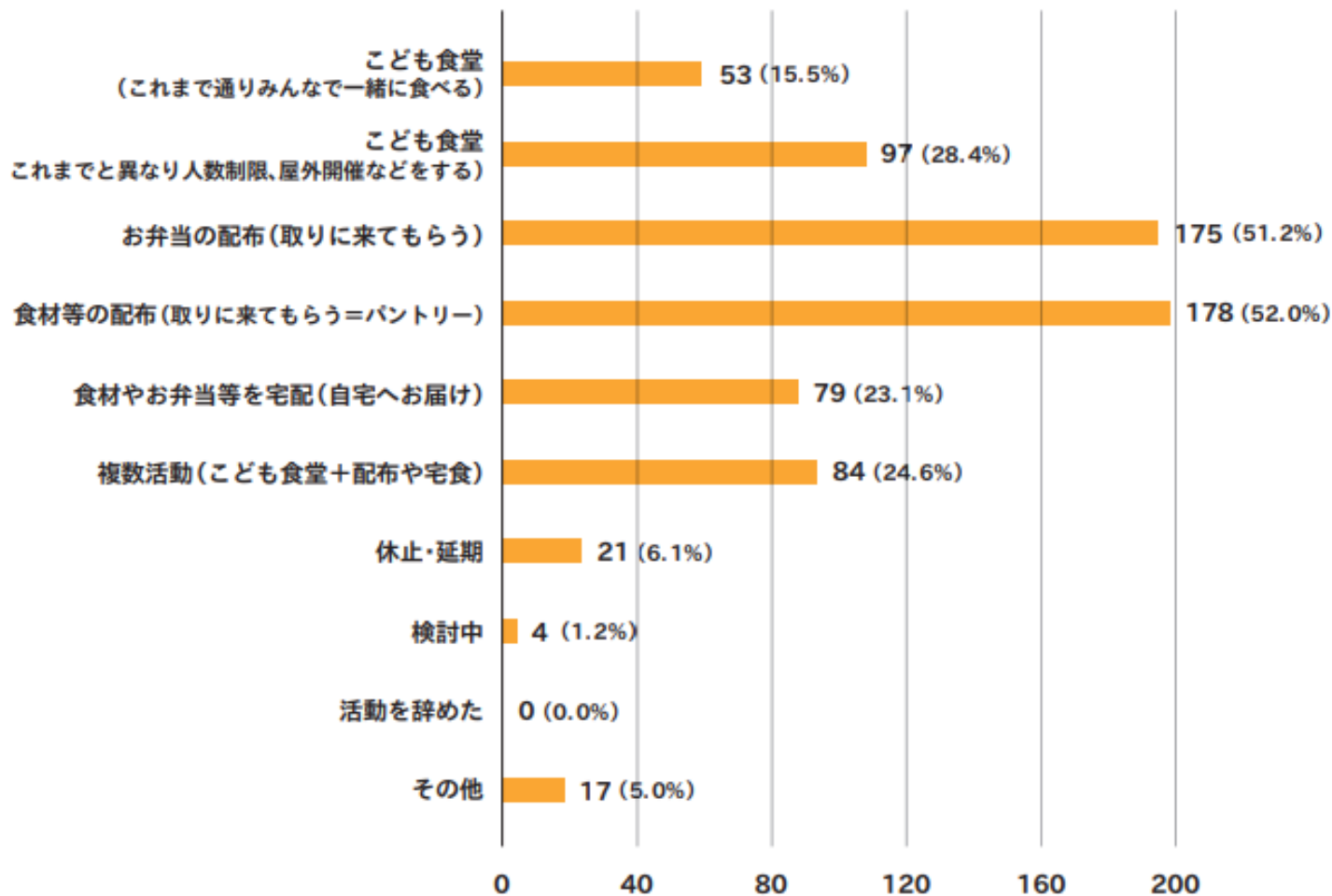
困っていることを複数回答で聞いたところ、

- ▽ 「感染防止の対応が難しい」が最も多く50%
- ▽ 「資金の不足」が37%と続いたほか、
- ▽ 「食材の不足」が19%となりました。



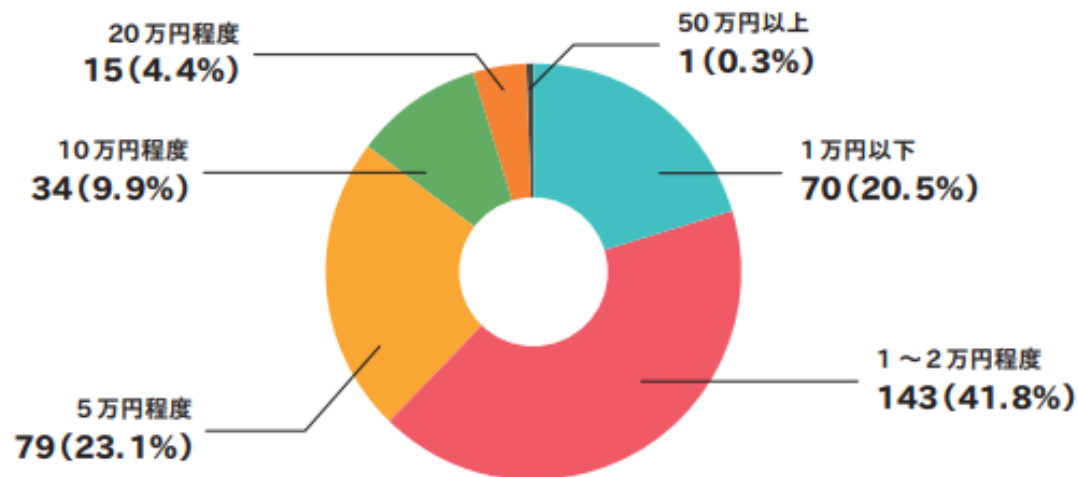
# こども食堂の開催状況(2020年9月時点)

単位：軒 ※複数回答可



# こども食堂の活動費用(月額)

単位：軒



## アンケートからわかること

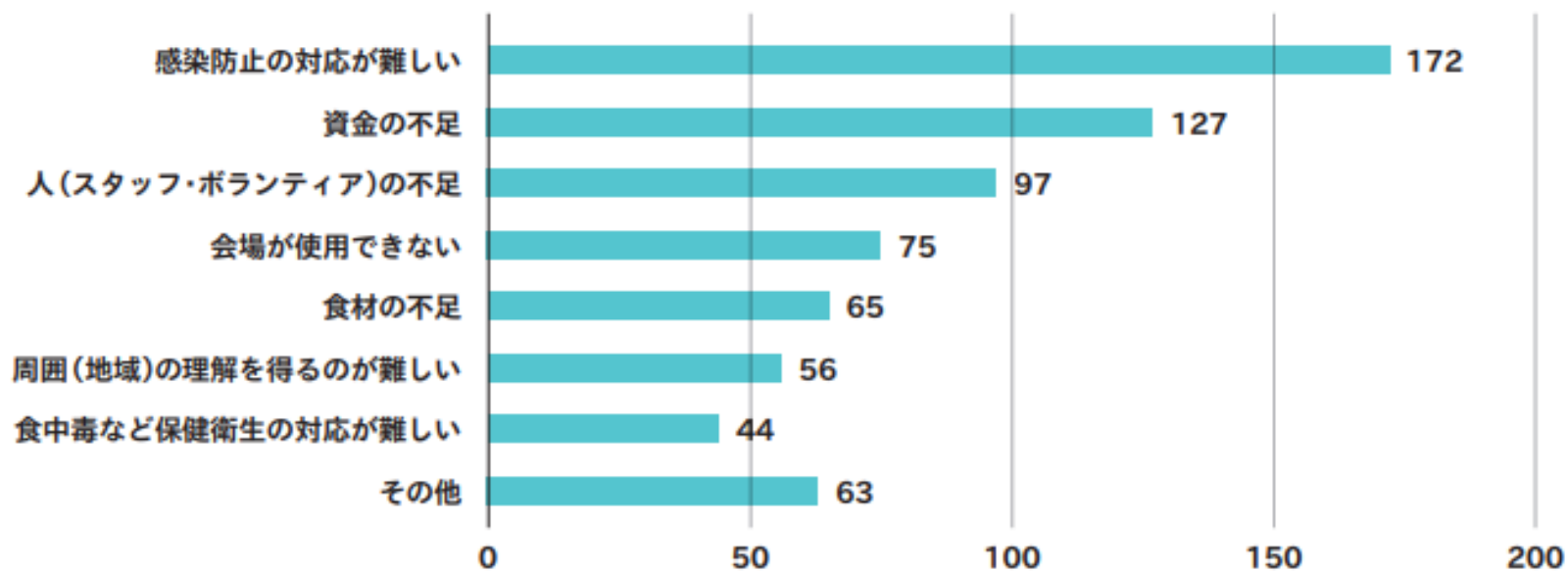
・こども食堂の活動費用は月額1~2万円程度が41.8%といちばん多く、2万円程度以下で62.3%、5万円程度以下で85.4%にのぼる。

・ただし、これは「一堂に会する形でのこども食堂の活動費用」であり、フードパントリーやお弁当配布となると、数倍の費用がかかることが報告されている。



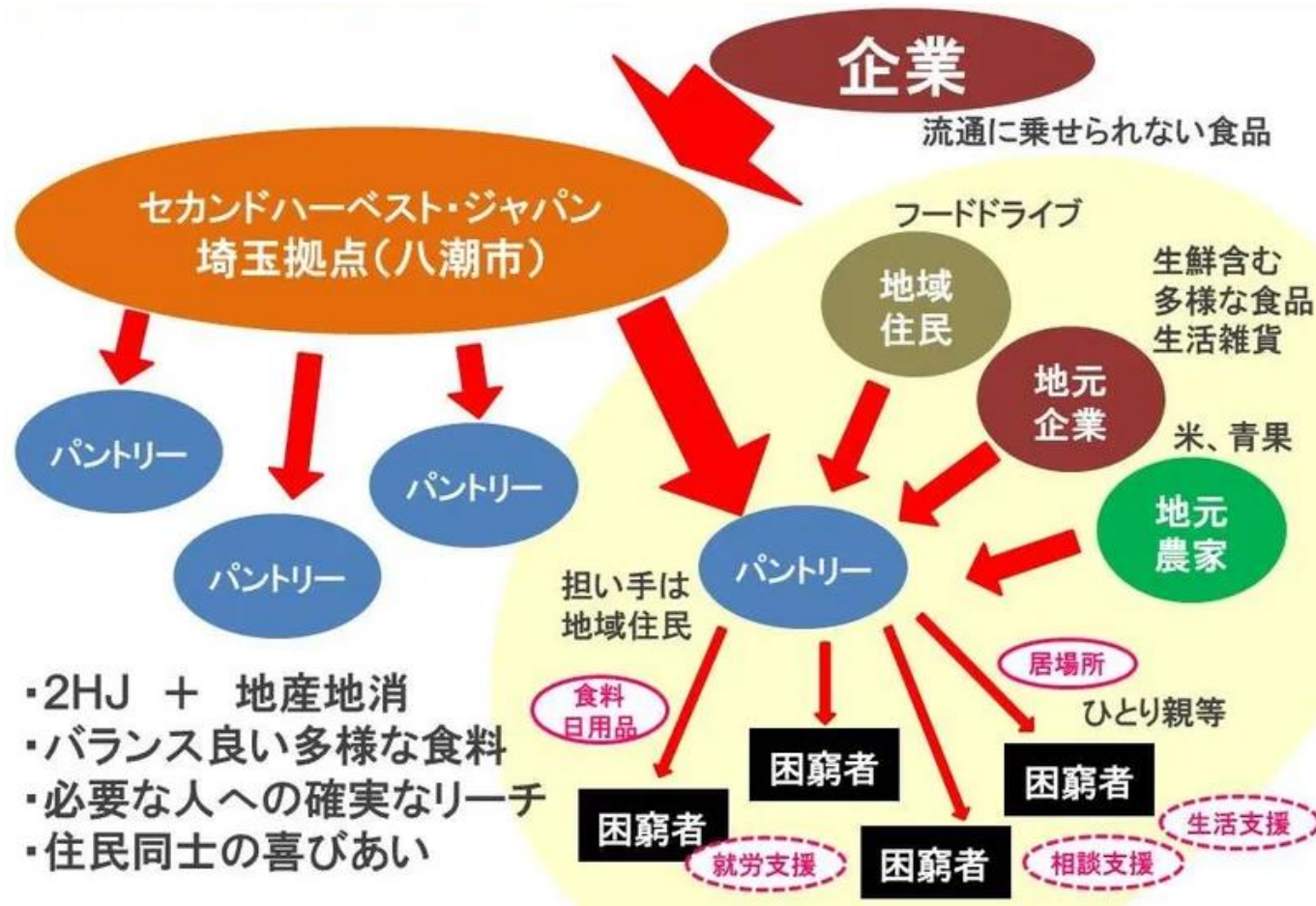
# こども食堂での困りごと

単位：軒 ※複数回答可



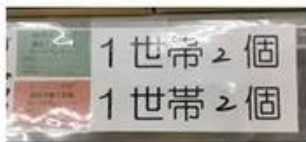
## 埼玉県内のフードパントリーの現状

# 埼玉県内で広がる子育て応援フードパントリー



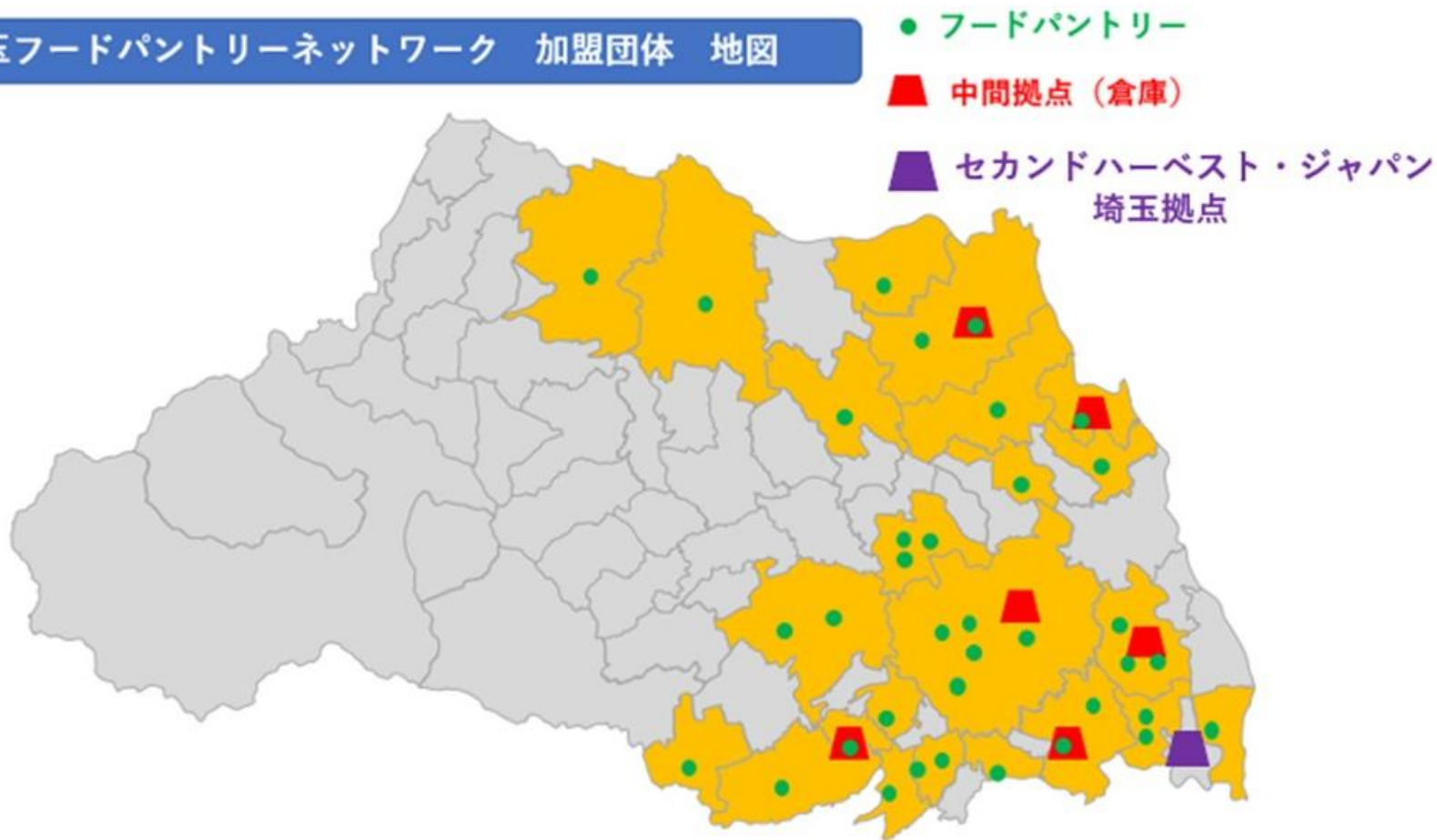
2HJに加え、フードバンク埼玉、埼玉県、地元企業からも物資提供

# フードパントリー開催当日の様子(越谷・加須)



# 埼玉フードパントリーネットワークの拠点図

## 埼玉フードパントリーネットワーク 加盟団体 地図



# 現状の課題

- パントリー活動拠点が急増したことに伴う、安定的な食材調達の先行き不安
  - ✓ 2018年9月にせんげん台（越谷市：草場澄江代表）で始まったパントリー活動が、2021年1月段階で41箇所拡大予定
  - ✓ 現在は、①セカンドハーベストジャパン、②フードバンク埼玉、③埼玉県による仲介、④地元企業からの寄付で運営
  
- 保管場所の不足
  - ✓ 現状、保管場所（中間拠点）は計6か所
  - ✓ 活動拡大に伴い、保管場所も大幅に不足することが予想される
  
- 運送網・物流網の不足
  - ✓ 現状は、株式会社首都圏物流、S社の2社が運送の一部を支援（限定的）
  - ✓ 今後、物流網が確実に不足

## 中間拠点・保管倉庫の状況(越谷の中間拠点)



## 事例紹介①ハピママメーカープロジェクト(埼玉県川口市)



# 立ち上げの経緯と課題

- 立ち上げの経緯：夜職（ナイトクラブ・風俗業等）がコロナ禍の公的支援の対象外となったことを受けて活動発足（のちに公的支援対象外の問題は是正）
- 夜職経験者の石川祐一・菜摘夫妻が西川口を拠点に活動（川口市内の診療所内※）

※医療生協さいたまグループ・川口診療所

## □ 課題：

- ✓ 毎月開催（第1日曜日）。約40～50世帯分の物資を集め、配布
- ✓ 1回あたりの開催コストがかさむ（1回あたり約3万円）。寄付物資集めも容易ではないため、継続性を持たせるため、2021年より開催形態を変更し、物資配布回と、コミュニティカフェ開催回を交互に実施することを検討中（物資配布は隔月）
- ✓ 物資の安定調達、物資配送のガソリン代・保管庫（ロジ）が課題



## 事例紹介②いとしまこども食堂ほっこり(福岡県糸島市)

# 立ち上げの経緯と課題

## □ 団体概要：

- ✓ いとしまこども食堂～ほっこり～
- ✓ 2016年11月より福岡県糸島市を中心に活動
- ✓ こども達の「自律」と「自立」を支援・次世代育成と多世代ふれあいの場

## □ 特徴：

- 学生が主体となって運営する「学生こども食堂」
- コロナ禍でも従来型の「皆で集まり皆で食事をするこども食堂」を続けている数少ない事例



# 現状と課題

## 食品調達で困り事はないか？

- フードバンクとは連携していないが、地域の方からのお米の提供、地元幼稚園からの野菜の支援、地元食品会社からのたまご焼きの提供などが継続中。Twitterで繋がりを持てた人からの支援など、食品提供はコロナ禍で逆に増えている。**こまめな情報公開や大学生の頑張り**を理解・支援してくださる方のおかげ。

## 公共施設（あごら）の利用について

- 糸島市の定める一般利用停止の期間は使用不可であったが、2020年6月からは、**人数制限があるものの、使用可能**に。
- こども食堂は県（福岡県）の登録を受けている。
- 運営者はコロナ感染防止の研修を受講し、県のガイドライン17項目のうち、14項目クリア出来ている。
- 開催するにあたり責任を持って運営する大人のスタッフが居ることなどが許可要因。
- 食品衛生責任者の講習の受講・調理師資格を持つスタッフがいることで、食事提供も許可されている。
- 市、教育委員会、社会福祉協議会の後援があることも、開催許可を得ることができたポジティブ要因。

## 行政機関への要望

- 公共施設の**部屋利用料の無償化**。
- 現在、議論が進む**政府備蓄米の活用**の促進（譲る条件の緩和等）。
- こども食堂運営団体と、**市町村行政機関との連携促進**への協力。
- 食料は備品の**マッチング**（こども食堂運営団体と支援に理解してくださる個人・企業との橋渡し）促進。
- まずは、**現場に足を運んで、現地を見ていただき**、何かを感じて欲しい。

## 戸田市(行政)の取り組み

# 戸田市の子どもの貧困対策



## ■調査・計画

H30年度 戸田市子ども・子育て支援事業に関する二一ズ調査実施  
R元年度 第2期戸田市子ども・子育て支援事業計画策定（5カ年）  
※本計画に、ひとり親等特に配慮を要する家庭への子育て・生活・学び・就業支援を位置づけた

➡ 市が係わる「子どもの居場所」（2か所）



### ①第三の居場所戸田拠点（NPO法人委託）

日本財団が「家でも学校でもない、子どもの第三の居場所」として全国第1号拠点して整備（H28.11月）。戸田市に事業移管（R2.4月～）され運営をNPO法人へ委託。

❖ 登録者数 14人(学童保育室【小1～小3】) 19人(学習支援【小4～中3】)

### ②学習支援事業 L-Cafe（社会福祉法人委託）

学習環境に恵まれない小・中学生を対象として、学生ボランティアが個別で学習の遅れや意欲をアシスト。運営は社会福祉法人へ委託。

❖ 登録者数 51人【小・中学生】

# 戸田市の子どもの貧困対策



## ■市直営による緊急事態宣言に伴う緊急的な支援活動

### “戸田っ子の食！応援団”フードパントリー



教育委員会とこども部門が連携

5月の2日間、市内6会場で

対象は児童扶養手当・就学援助受給者等

約380世帯が利用

災害備蓄品、給食食材活用市内企業

地元企業、フードバンクからも食品寄贈

職員によるフードドライブ実施

# 戸田市の子どもの貧困対策



**【緊急告知】“戸田っ子の食！応援団” フードパントリー**

市内**6**つの会場で

**要申込** **食料無料配布**

**5月19日(火)** 15時～20時  
 ・東部福祉センター※  
 ・新曽福祉センター※  
 ・あいバル

**5月20日(水)** 15時～20時  
 ・福祉保健センター※  
 ・西部福祉センター  
 ・児童センタープリムローズ

**ドライブスルー(※の施設)も3会場で実施**  
 (車を降りずに、お渡しできます。)

子育て家庭で、食の支援が必要な家庭に、市の災害備蓄品や給食食材、企業からの高贈品などを、無料でお配りします。

**<対象>** 18歳以下(R2.3.31現在)のお子さんがいる、児童扶養手当や就学援助受給世帯、生活保護受給世帯等で食にお困りの世帯  
**<配布数>** 約200世帯分(6会場合計)  
**<配布物>** お米、アルファ米、缶入りパンほか、保存食品、飲料など(内容は選べません)  
**<申込>** 戸田市ホームページ内専用フォームから申込みください。  
 ※申込は、右下のQRコードからも可能です。  
**<期限>** 5月7日(木)～13日(水)午後5時まで ※配布数に達し次第、締め切ります。  
**<受取>** 上記の市内6か所の公共施設から1か所を、申込時にお選びください。

○主催：戸田市教育委員会・戸田市 ○共催：社会福祉法人 戸田市社会福祉協議会  
 ○協力：埼玉県、NPO法人フードバンク埼玉 **お申込みはこちら→**  
 認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン  
 埼玉県子ども食堂ネットワーク、埼玉フードパントリーネットワークほか  
 お問い合わせ先：戸田市教育委員会学校給食課 TEL442-5065  
 kyusyoku@city.toda.saitama.jp

**戸田市職員** **食べきれない食品で**  
**市民の生活を応援しよう!**

**フードドライブ**  
**5/11(月)～15日(金)**  
**危機管理防災課まで食品をお持ちください**

**「フードドライブ」とは?**  
 様々な理由で捨てられてしまう食品を家庭から寄贈してもらい、生活困窮家庭など食品を必要とする家庭に無償で提供する活動です

**【お受けできる食品】**  
 ・賞味期限が設定されている場合  
 1か月以上余裕があるもの  
 ・未開封で常温保存ができる食品

レトルト食品 調味料、缶・瓶詰  
 お菓子・スナック類 ジュース・コーヒーなど

インスタント麺・乾麺 野菜・果物・米など  
 乾物(ふりかけ・海苔など)

**【お受けできない食品】**  
 肉・魚、冷凍・冷蔵品 お酒・アルコール

受付日時  
 5月11日(月)～15日(金)

受付会場  
 本庁舎3階 危機管理防災課

受付食品  
 ○賞味期限が1か月以上ある食品  
 ○未開封で常温保存ができる食品

お問合せ：危機管理防災課 TEL048-441-1800(内311) MAIL kikikanri@city.saitama.toda.jp



# 行政(役所)職員が地域と関わるには(戸田市副市長)

**内田 貴之氏**：2020年3月まで埼玉県福祉部少子対策局長付企画幹として活躍。子どもの食支援活動と地域(個人・企業等)をマッチングするプラットフォーム「こども応援ネットワーク埼玉」の生みの親。2020年4月より戸田市副市長に就任。戸田市発の様々な施策を実行中。

Q1. 役所と子どもの食支援等の動きを支える市民活動家との連携のコツは？

A1.

- 市民活動家の方々は、**役所との温度差**を常にかけていることを念頭に置く。
- 信頼関係ができないと何も進まない。**体温を共有**することで、信頼関係が生まれる。体温を共有できる役所の職員はまだ少ない。そのスキルを磨くべき。
- 「人とつながる」ことを仕事の最優先にする。多くの人の話を聞くことが肝要。
- 多様なステークホルダーの方々や、カネ、モノ、場所、ノウハウなどの社会資源がつながる場**(プラットフォーム)**を作ることが重要。それさえできれば可能性は無限にある。**SNSもうまく活用**する。

Q2. 内田さんご自身は、なぜそうした視点が持てるのか？

A2.

10年前、県庁のPR部門配属をきっかけに官民連携による社会課題の解決方法についての研究をライフワークに。人々が行動するための**「動機付け」**を行う手法、「動機付け」をより強固にするためのものを研究し実践してきた。**「コミュニケーション戦略」**

行政が最も後回しにしがちな**「コミュニケーション」**を最優先タスクに位置付けるという**発想**が、役所と地域との距離を縮めることが分かってきた。



まとめ

# 子どもの食支援の今後の課題

- コロナ禍で見えてきた課題
  - ✓ 「共食型居場所支援」から「配布型支援」へとトレンドが移る
  - ✓ それに伴うコスト増、負担増
  - ✓ 一方で、食支援が必要な世帯・子どもたちの数は急増
  
- 6つの課題
  - ①食材物資の安定調達
  - ②保管手段
  - ③輸送手段
  - +
  - ④事務局運営
  - ⑤拠点網（1か所の活動拠点では不十分）
  - ⑥運営上の人手リソース（上記の①～⑤をカバーする人的支援）
  
- キーアクション➡ステークホルダーが上記課題を定期的に話し合い、顔が見える関係を作るネットワーク作りの促進

# 埼玉県立大主催の定例会議(ネットワーク)

コア会議(埼玉県全域対象)  
第2・第4金曜日の18時30分～19時30分  
※ZOOMオンライン

地区会議(川口市対象)  
第1・第3木曜日の18時30分～19時30分  
※ZOOMオンライン

参加者：フードバンク埼玉、地域包括支援センター、生協、社協、医療機関、宗教施設(寺社)、薬局、保育関係者、企業、学校関係者、民生委員・児童委員、難民支援団体 など



# 【参考】日本こどもの居場所ネットワーク埼玉支部

## 埼玉県

### 日本こどもの居場所ネットワーク(全国)

メンバー2,200名 (FB登録数)  
こどもの居場所作りの運営者・支援者等のオンラインコミュニティ  
事務局：佐藤 匡史

連携

協力

少子政策課



座長：埼玉県立大学大学院  
研究開発センター  
教授 川越 雅弘 様

フードバンク埼玉、地域包括支援センター、  
生協、社協、医療機関、宗教施設(寺社)、  
薬局、保育関係者、企業、学校関係者、民  
生委員・児童委員、難民支援団体  
などが参加

### 埼玉県立大学ネットワーク会議



## 埼玉

### フードバンク埼玉

コスモナレシピ (さいたま市) 【宅・食】 食：こども食堂  
mokuこどもcafé (さいたま市) 【食】 パ：フードパントリー  
志木のまいにちこども食堂 (志木市) 【食】 宅：こども宅食  
わ・和・輪の会 子ども食堂 (朝霞市) 【食】 ド：フードドライブ  
May 's garden (幸手市) 【食・パ・ド】 ネ：ネットワーク  
こども未来食堂マイカ (草加市) 【食・パ・宅】  
医療生協さいたまグループ・老健みぬま (川口市) 【パ・ド】  
こども応援ネットワークPine (草加市) 【ネ】  
ハピママメーカープロジェクト (川口市) 【パ】  
川口こども食堂 (川口市) 【食】

事務局：佐藤 匡史 顧問：埼玉県立大学 川越 雅弘 様

### 日本こどもの居場所ネットワーク埼玉支部

※各川口地域活動団体とも連携

協力